

令和4年度 男女共同参画社会づくり作文コンクール



男女が互いにその人権を尊重し、責任をともに分かち合い、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に、男女共同参画に関する作文を募集しましたところ、数多くの作品が寄せられました。

ここに、入賞作品をご紹介します。

作品応募総数366点

(敬称略・五十音順)

【最優秀賞】

自分の価値観で

八 尾 中学校2年 中根 志都

【優秀賞】

自分のしたいこと

新 庄 中学校2年 瓜生 葵羅

自分らしく生きるために

速 星 中学校1年 川崎 楓愛

ありのままの自分で

南 部 中学校3年 田中 里奈

性別とこれからの私の生き方

片山学園 中学校3年 堤下 愛羅

【佳作】

あなたにとっての普通とは

上 滝 中学校3年 石田 珠樹

男性の育児休暇

大沢野 中学校1年 奥井 彪仁

「男の産休」

南 部 中学校2年 草嶋 優育

自分らしく

呉 羽 中学校1年 小林 樹里

個性を活かした社会に

南 部 中学校2年 仲江 芽衣

僕の祖父

西 部 中学校2年 廣世 凌真

子育てに性別は関係ない！

新 庄 中学校2年 深川 佳帆子

社会での男女平等を

山 室 中学校3年 堀川 悠希愛

本当に自由な未来へ

片山学園 中学校3年 牧田 芽依

よりよい社会を目指すために

片山学園 中学校1年 安井 菜々子

最優秀賞

自分の価値観で

八尾中学校 2 年 中根 志都

私が住んでいる富山市八尾町は、日本道百選に選ばれていたり、昔から伝わる伝統文化がたくさんあったりと、ゆったりと時間が流れる古き良き町です。

そんな町で今年五月のゴールデンウィークにコロナ感染症の影響でしばらく中止されていた曳山祭りが開催されました。その様子を母とみる機会があったとき母は、

「最近、女の子も曳山を引いたり、乗ったりしているんだね。」と、話していました。私としては当たり前前の光景だったので不思議に感じました。その事を両親に尋ねると、神事に女性が関わることがだめだと言われ続けていたそうです。思い出してみれば、年末の天神様の準備や神棚の掃除も、祖母に男性の仕事だからと私は参加していませんでした。伝統行事に性別の違いから参加できないということに違和感を覚えました。そんな男女の差は、九月に行われているおわら風の盆でもあったようです。おわら演奏の特徴的な胡弓の演奏は、足を大きく開いて行うスタイルの為、女性はよくないとされ男性ばかりだったそうです。

しかし、近年では胡弓演奏に女性の姿を見かけることがあり男女の差が縮まりつつあります。伝統文化にも新しい風が吹き込み性別関係なく楽しめるようになってきたことに嬉しさを感じました。

男女差がなくなることに平等差を感じつつも違う側面もあるかと私は思います。おわらには、男踊りと女踊りがあり、二つの踊りが重なりあってとても素晴らしい雰囲気があります。男性ならではの力強さや女性ならではの柔らかい艶やかな踊りがとても魅力的です。踊りが違うことに私自身違和感はなく一つの芸術としてとても美しいと感じます。

職業や文化、習慣など様々な面でこれからの私が成長していく中で男女差の問題に苦しむこともあるかもしれません。おわらで感じたように男女差を良く感じたり、差別だと感じたりしたように迷うこともあるかもしれません。けれども、全てを肯定・否定するのではなく、今の時代に合った男女感の変化を取り入れながら行動をしていきたいです。

優 秀 賞 (4 点)

自分のしたいこと

新庄中学校 2 年 瓜生 葵羅

「私は野球部に所ぞくしている。」そういうと驚く人が多い。「女の子なのに野球なんてすごいね。」「女の子なのにかっこいいね。」とよく言われる。その言葉を聞いて私は素直に喜ぶことができない。「女の子なのに。」とはどういう意味なのだろうか。

女の子でも野球はするし、男の子でもバレエをする。男の子とか女の子とかそんなこと関係なしに、自分の好きなことをするのが一番だと思う。私は中学校の部活動決めのときにすごく悩んだ。二十七人男の子の中で一人女の子でやっていけるのかがすごく心配だったからだ。悩みに悩んだ結果、私は自分の一番したい野球部に入ることを決断した。一年生のはじめ、自分は他の人とは違い浮いている感じがして嫌だった。悪気のない「野球部に女の子がいる。」という言葉が聞こえてくるだけで悲しい気持ちになった。今私は二年生で、野球部に入部したことを全く後悔していない。もちろん嫌なことが無い訳ではないが、自分の好きなことで得られる達成感や喜びは他の部活では感じることはできなかったと思う。他のことをしてそれらを感じることもすごく良いと思う。でも私は自分の好きなこと、やりたいことにこだわりたい。「男だから」「女だから」であきらめるのではなく、自分の好きなことをできてそれが認められる社会になってほしい。

私が、もし今と違う部活をえらんでいたら中学校の野球部に入部して得られていた喜びや達成感は全く違うものだったと思う。自分のしたいことを素直にして、悔いのない人生をつくっていかう。

自分らしく生きるために

速星中学校 1 年 川崎 楓愛

私は幼い頃、「何色が好き？」と聞かれると決まって「青」と答えいていた。キャラクターも機関車が好きで色々な機関車を集めて遊んでいた。そんな話を周りの人にする
と、「男の子が好きそうなものが好きだったんだね。」と言われた。そのとき、男の子が
好きなものという言葉に違和感を覚えた。自分が好きなもので遊ぶことに性別は関係な
いだろう。青、機関車は男の子が好きなものというのはいちいち思い込みだ。

普段あまりスカートを着ない私は中学校に入学するにあたって制服をズボンにする
つもりだった。スカートだと動きにくいからだ。しかし制服を作りに行った時、上がセ
ーラー服で下がズボンだと不自然に見えた。ブレザーで、リボンやネクタイ、スカート
やズボンを自由に組み合わせて選べる制服だったらいいのにと残念だった。

ある学校では制服をズボンにしたいと言った女の子が先生から「それはトランスジェ
ンダーが着るものだ。」と言われたそうだ。多くの人がもつ差別意識はこうやって明ら
かになるのだ。

「男女平等」という言葉はよく聞く。しかし私の学校は男子が最初で一番から、女子
はその次で三十一番からになっている。なぜ男女を混ぜての番号にならないのか疑問に
思っている。さらに、学校の校長先生や大臣など様々な分野でリーダーになるのは男性
が多い。リーダーは、男性の仕事と多くの人が思い込んでいるからではないだろうか。

私の夢は宇宙飛行士だ。ところが宇宙飛行士のイラストに描かれているのは、多くの
場合が男の人だ。実際は女性もいるのに。宇宙飛行士は男性だと思い込んでいるからそ
うなるのだろう。

これらのことから、私は思い込みが差別を生み、自分らしく生きるのを妨げていると
思った。自分が好きなことを大切にして、自分らしく生きるために大切なことは、「決
めつけない」ことだと思う。宇宙飛行士になる私の夢を叶えるため、充実した中学校生
活を送り、自分の生き方を自分で決める第一歩としたい。

ありのままの自分で

南部中学校 3 年 田中 里奈

私は、性別にとらわれず自分らしく生きるためには相手のことを否定せず、受け入れることが大事だと思います。最近ではLGBTという言葉をよく耳にすることが多くなったと感じます。初めは何のことか分からなかったため調べてみると心と体の性が一致しない人の呼び方であることを知りました。産婦人科の先生が講演に来てくださったときもこのことについて触れていました。LGBTの人達を意識した取り組みとしては小学生の安全帽子をキャップとハットで選べるようになっていたり、スクール水着のデザインを統一したりさまざまな所で行われています。

私は性別について悩んだことはなく、LGBTの人達がどんな感覚で生活しているのか完全に理解するのは難しいです。けれど、私も少し性別についてのことで考えたことがあります。

私は黒や紺といったような暗い落ち着いた色が好きです。だから、ある日洋服屋に行ったとき黒のTシャツやワンピースを選んでいました。その時に「女の子なんだから明るい色のものを選びなさい。」と言われました。この「～だから」という言葉が性別にとられる一つの原因となっていると思いました。例えば「男の子だからメソメソしないの。」とか「女の子だからおしとやかでいなさい。」とかです。一度は言われたことがあると思います。

他にも、女の子はプリキュア、男の子は戦隊ヒーロー。女の子はピンク、男の子は青。こういったイメージも私達を縛り付けている原因となっていると思います。仕草や言葉遣い、服装、趣味などもです。

このような問題を抱えていながらもどうしたら自分らしくいられるのか。私は二つ解決方法があると思います。

一つ目は相手を否定しないことです。もし自分のことを否定されてしまうと誰でも悲しい気持ちになると思います。「へーそうなんだ。」と優しく共感してあげることが相手の不安を解消することにつながると思います。また、相手と同じことをしてみるのもいいかもしれません。私も友人と同じことをしてみると案外楽しくて自分の趣味の一つになっています。視野を広げることが大事だと思います。

二つ目は相手に自分の意見を押し付けないことです。その人その人にはさまざまな考えがあります。そういう考え方もあるんだと受け入れることも一歩につながると思います。

私は自分らしく生きてると自信を持って言えないけれど、自分の心を少しだけさらけだしながら気持ち良い生活を送れるようにしていきたいです。

性別とこれからの私の生き方

片山学園中学校 3 年 堤下 愛羅

男性はカッコよく、女性は可愛くあるべきだ。そんな偏った考えはなくすべきだ。

私は小学六年生の時、性別に関する不満を感じたことがあった。卒業式が近づいた二月の終わり、卒業式で特別な台詞を話す代表者を決める時が来た。台詞は全部で十個ほどあった。そして、私は最初の台詞を任されるのがずっと夢だった。そのため、最初の台詞を言いたい人の希望調査をされた時、私は手を挙げた。しかし、手を挙げたのかどうなのかも分からない男子に対し、先生は「あなたはカッコよくやってくれそうね。」と言って彼を指名し、私には目も向けてくれなかった。そのうえ、次の台詞の希望を聞かれた時、私は全く手を挙げていなかったのにもかかわらず、「あなたは雰囲気がいい。華がある。」と言って偶然先生の近くにいた女子である私を指名したのだ。このとき、日本の男女差別、性別による偏見があることを実感させられた。

男性だから、カッコいい。女性だから、可愛らしい、華がある。全ての人がそうでないといけないのか。そうでないと、人に変だと思われなければならないのか。私は、それらは間違いだと思う。男性という性別を一つのかたまりとして見て、カッコいいものだと決めつけてはならない。女性という性別も同じようにとらえ、女性は男性の次である存在、可愛らしさや華などの雰囲気が大事などと決めつけてはならない。特に、ファッションなど外見を性別で決められてしまうことが多い。私は、男性が髪を伸ばすのも、スカートに身を付けるのも、その人の個性でよいと思うし、女性が髪を短くし、ズボンを好んで身に付けるのも人それぞれでよいと思う。

だから、私は自分らしく生きたい。性別による偏見で夢を諦めそうになっても、これからは諦めない。あのときの後悔を、これからの私の生き方で挽回させたい。